

# 立教大学 社会情報教育研究センター 2012年度 活動報告

## 【目次】

1. 事業活動日誌
2. 公開講演会・公開講座・セミナー等 開催実績
  - 1) 公開講演会・公開講座
  - 2) CSI 統計分析・活用セミナー
  - 3) 統計検定対策セミナー
  - 4) CSI 統計研究会
  - 5) 共催・後援セミナー
  - 6) 外部機関からの依頼講演・講義
3. 調査研究報告 等
4. 資格支援事業
  - 1) 社会調査士資格支援
  - 2) 統計検定支援
5. 教育支援事業
  - 1) 正課提供科目
  - 2) 統計学習コンテンツ
  - 3) 大学間連携共同教育推進事業
  - 4) 高校・大学連携教育への取り組み
6. 研究支援事業
  - 1) 調査分析協力
  - 2) 調査研究コンサルティング
  - 3) 社会調査データアーカイブRUDA
7. 出版物等
8. 受賞歴
9. 人事
10. 組織図
11. メンバー一覧および各種部会

## 1. 事業活動日誌

月	日	内容
4月	6	第1回 政府統計部会（栄村調査）打合せ
	9	社会調査士資格申請書提出
	11	調査研究コンサルティング（ビジネスデザイン研究科）
	17	第1回 統計教育部会 定例会議
		連続公開講座 会議（メディアセンター・マイクロソフト社）
	19	第1回 政府統計部会 定例会議
		第1回 社会調査部会 定例会議
	24	調査研究コンサルティング（リサーチイニシアティブセンター）
		第2回 統計教育部会 定例会議
		調査研究 コンサルティング（ビジネスデザイン研究科）
	25	CSI 統計分析セミナー（IA コース SPSS の基礎・池袋）
	26	第1回 センター運営会議
5月	8	第3回 統計教育部会 定例会議
	9	CSI 統計分析セミナー（IB コース クロス集計表をマスターする・池袋）
	10	第2回 政府統計部会 定例会議
	14	CSI 統計活用セミナー（A コース 経済波及効果を測定する RECO の利用・池袋）
	15	調査研究コンサルティング（ビジネスデザイン研究科）
		第4回 統計教育部会 定例会議
	17	第1回 センター連絡会議
	22	調査研究コンサルティング（ビジネスデザイン研究科）
	23	CSI 統計分析セミナー（IC コース 相関係数をマスターする・池袋）
		調査研究コンサルティング（ビジネスデザイン研究科）
		調査研究コンサルティング（経営学部）
	24	第2回 社会調査部会 定例会議
	28	調査研究コンサルティング（ビジネスデザイン研究科）
	29	第2回 政府統計部会（栄村調査）定例会議
	31	第3回 政府統計部会 定例会議
6月	1～20	社会調査士（見込み）資格 前期申請期間
	2	第1回 考える技術・伝える技術 ～立教型ビジネス基礎講座～ （立教大学 日本マイクロソフト社共催）
	4～22	社会調査士（見込み）資格 前期提出期間
	5	第5回 統計教育部会 定例会議
	6	CSI 統計分析セミナー（ID コース SPSS による多変量解析・池袋）
		調査研究コンサルティング（経営学部）
	7	第2回 センター運営会議
	9	第2回 考える技術・伝える技術 ～立教型ビジネス基礎講座～ （立教大学 日本マイクロソフト社共催）
	11	CSI 統計分析セミナー（NB コース R コマンダーの基礎（2）・新座）
	12	調査研究コンサルティング（ランゲージセンター）

		総務省統計局統計研修所主催 中堅職員過程における講義（菊地教授）
	14	第2回 センター連絡会議
	18	CSI 統計活用セミナー（Cコース 統計地図を作成する G-Census の活用・池袋）
	19	第3回 政府統計部会（栄村調査）定例会議
		第6回 統計教育部会 定例会議
	20	CSI 統計分析セミナー（IEコース R コマンダーの基礎（1）・池袋）
	21	第4回 政府統計部会 定例会議
		内閣府ヒアリング訪問（立教大学社会情報教育研究センターにおける公的統計学習と二次的利用の取り組み）
	23	第3回 考える技術・伝える技術 ～立教型ビジネス基礎講座～ （立教大学 日本マイクロソフト社共催）
	25	第4回 公開講演会（産学官による GIS を用いた支援活動）
	26	第7回 統計教育部会 定例会議
		調査研究コンサルティング（経済学部）
	30	第4回 考える技術・伝える技術 ～立教型ビジネス基礎講座～ （立教大学 日本マイクロソフト社共催）
7月	3	第4回 政府統計部会（栄村調査）定例会議
		調査研究コンサルティング（経済学部）
	4	CSI 統計分析セミナー（IFコース R コマンダーの基礎（2）・池袋）
	5	第3回 センター運営会議
		調査研究コンサルティング（社会学研究科）
		第5回 政府統計部会 定例会議
		第3回 社会調査部会 定例会議
	7	調査研究コンサルティング（経済学研究科）
	9	CSI 統計分析セミナー（NCコース Rの基礎・新座）
	10	調査研究コンサルティング（経済学研究科）
	12	第3回 センター連絡会議
		CSI 統計活用セミナー（Eコース SPSS ミクロ統計分析入門・新座）
	14	第5回 考える技術・伝える技術 ～立教型ビジネス基礎講座～ （立教大学 日本マイクロソフト社共催）
	18	CSI 統計分析セミナー（IGコース Rの基礎・池袋）
	19	調査研究コンサルティング（ビジネスデザイン研究科）
		第5回 政府統計部会（栄村調査）定例会議
		第4回 社会調査部会 定例会議
	23	現代心理学部における社会調査士資格事前申請相談（新座キャンパス）
	25	内閣府統計委員会基本計画部会第3ワーキンググループでの報告（菊地教授）
	29	高校数学・新課程研修会 2012 夏 ～動き始めた新課程～ （高校数学・新課程を考える会・共催）
8月	3～6	アドバンスド社会調査セミナー（（社）社会調査協会主催）
	7	中小企業家同友会・立教経済研究所主催 公開シンポジウム講演 『リーマンショック、大震災後の中小企業景況の行方』（菊地教授）
	8	高校生向け統計教育セミナー
	20～23	政府統計部会 長野県栄村調査出張
	28	第62回統計セミナー打合せ・下見（日本統計協会）
9月	6	政府統計部会ヒアリング（千葉柏市役所・財団法人柏市みどりの基金）

	24～ 10/17	社会調査士（見込み）資格後期申請期間
	24～ 10/10	統計検定受験申請受付期間
		調査研究コンサルティング（ランゲージセンター）
	25	第8回 統計教育部会 定例会議
		調査研究コンサルティング（経済学研究科）
		調査研究コンサルティング（学生部学生厚生課）
	25～ 10/19	社会調査士（見込み）資格の後期提出期間
	27	第4回 統計研究会（柏市におけるGISを用いた空間統計の活用）
	29	第62回統計セミナー（日本統計協会 主催）
		第1回 統計教育大学間連携ネットワーク運営委員会（山口教授）
10月	1	調査研究コンサルティング（ランゲージセンター）
	2	調査研究コンサルティング（経営学研究科）
		第9回 統計教育部会 定例会議
		統計検定対策セミナー・ガイダンス
	3	CSI 統計分析セミナー（IA コース 回帰分析入門（1）・池袋）
	4	第4回 センター運営会議
	6	第2回 統計教育大学間連携ネットワーク運営委員会（山口教授）
	8	第5回 公開講演会（3.12 震災を乗り越え新たな歩み始める長野県栄村ー統計情報の活用と復興計画ー）
		調査研究コンサルティング（コミュニティ福祉研究科）
	9	第10回 統計教育部会 定例会議
	10	CSI 統計分析セミナー（IB コース 回帰分析入門（2）・池袋）
	11	第4回 センター連絡会議
	15	調査研究コンサルティング（ランゲージセンター）
		CSI 統計分析セミナー（NA コース R コマンドの基礎（1）・新座）
	16	第1回統計教育大学間連携ネットワーク システム開発 WG 会議（山口教授）
	18	第6回 政府統計部会 定例会議
	22	調査研究コンサルティング（ランゲージセンター）
	23	調査研究コンサルティング（ランゲージセンター）
		第11回 統計教育部会 定例会議
		第1回 統計検定対策セミナー
	24	CSI 統計分析セミナー（IC コース 因子分析入門・池袋）
	26	調査研究コンサルティング（文学研究科）
		CSI 統計活用セミナー（A コース 将来人口推定コンテンツ POCO の利用・新座）
		第3回統計教育大学間連携ネットワーク運営委員会（山口教授）
	29	CSI 統計活用セミナー（B コース 将来人口推定コンテンツ POCO の利用・池袋）
	30	調査研究コンサルティング（ランゲージセンター）
		第2回 統計検定対策セミナー
	31	第4回統計教育大学間連携ネットワーク運営委員会（山口教授）
		第1回統計教育大学間連携ネットワーク外部評価委員会（山口教授）
11月	5	大分県統計課主催・現場対応型研修依頼講義（菊地教授）
	6	第12回 統計教育部会 定例会議

	7	CSI 統計分析セミナー (ID コース 共分散構造分析入門 (1) ・池袋)
	8	第 5 回 センター運営会議
		第 6 回 政府統計部会 (栄村調査) 定例会議
	11	(社) 社会調査協会 連絡責任者会議出席 (出席者: 廣瀬助教・CSI 事務局荒井)
	12	CSI 統計分析セミナー (NB コース R コマンダーの基礎 (2) ・新座)
	13	調査研究コンサルティング (経済学研究科)
		調査研究コンサルティング (学生部学生厚生課)
		第 3 回 統計検定対策セミナー
		第 13 回 統計教育部会 定例会議
	15	第 5 回 センター連絡会議
	17	第 1 回統計教育大学間連携ネットワーク 質保証委員会・カリキュラム策定委員会合同委員会 出席 (金澤助教・小野寺助教)
	18	統計検定 (1 級~3 級) 団体受験
	19	総務省統計局統計研修所・特別講座 (『政策形成における統計の役割』の講義: 菊地教授)
	20	調査研究コンサルティング (コミュニティ福祉研究科)
		第 14 回 統計教育部会 定例会議
	21	CSI 統計分析セミナー (IE コース 共分散構造分析入門 (2) ・池袋)
	23	公開学術フォーラム (グローバル消費文化研究会主催)
	26	CSI 統計活用セミナー (C コース 統計地図を作成する G-Census の利用・池袋)
	27	平成 24 年度 統計活動奨励賞受賞: 政府統計部会 授与式出席 (主催: 財団法人日本統計協会)
		調査研究コンサルティング (学生部学生厚生課)
12 月	2	第 5 回統計教育大学間連携ネットワーク運営委員会 (三田 PC)
	5	CSI 統計分析セミナー (IF コース R コマンダーの基礎 (1) ・池袋)
	6	第 6 回 センター運営会議
		CSI 統計活用セミナー (E コース SPSS ミクロ統計分析入門・新座)
	9	経済統計学会 関西支部研究会 発表 (小野寺助教)
	10	CSI 統計活用セミナー (D コース SPSS ミクロ統計分析入門・池袋)
		CSI 統計分析セミナー (NC コース R の基礎・新座)
	11	調査研究コンサルティング (経済学研究科)
		第 15 回 統計教育部会 定例会議
		第 7 回 政府統計部会 (栄村調査) 打合せ
	13	第 6 回 センター連絡会議
	14	統計教育大学間連携ネットワーク主催 公開講演会 「米国大学における統計基礎教育の実践と評価」
	15	第 2 回 統計教育大学間連携ネットワーク 質保証委員会 (小野寺助教)
		第 2 回 統計教育大学間連携ネットワーク カリキュラム策定委員会 (金澤助教)
	20	調査研究コンサルティング (コミュニティ福祉学部)
	21	社会調査士科目、専門社会調査士科目の申請科目提出
2013 年 1 月	5	第 3 回 統計教育大学間連携ネットワーク 質保証委員会 (山口教授)
	8	調査研究コンサルティング (学生部学生厚生課)
	10	第 5 回 社会調査部会 定例会議

	12	第3回 統計教育大学間連携ネットワーク カリキュラム策定委員会 (金澤助教)
	15	第16回 統計教育部会 定例会議
	16	第7回 政府統計部会 定例会議
	17	第7回 センター運営会議
	21	第8回 政府統計部会 定例会議
	22	第5回 統計研究会 (統計の品質論とその実践)
		調査研究コンサルティング (学生部学生厚生課)
		第17回 統計教育部会 定例会議
	24	第7回 センター連絡会議
		第9回 政府統計部会 定例会議
	28	調査研究コンサルティング (学生部学生厚生課)
	29	第8回 政府統計部会 (栄村調査) 定例会議
2月	1	第2回 統計教育大学間連携ネットワーク システム開発WG 会議出席 (山口教授)
	1~3	愛媛県東温市・松山大学 調査出張 (菊地教授、小野寺助教、倉田学術調査員)
	13	平成24年度統計情報セミナー『行政とビジネスにおける統計データ利用の可能性』in 東京 依頼講演 (菊地教授)
	18~22	統計教育大学間連携ネットワーク主催 米国調査出張 (山口教授)
	20	平成24年度統計情報セミナー『行政とビジネスにおける統計データ利用の可能性』in 大阪 依頼講演 (菊地教授)
	21	第10回 政府統計部会 定例会議
	23	第4回 統計教育大学間連携ネットワーク カリキュラム策定委員会 (金澤助教・三田PC)
	26	第8回 センター運営会議
		第63回統計セミナー打合せ・下見 (日本統計協会)
	28~3/14	社会調査士・専門社会調査士資格 申請期間
	3	日本統計学会ワークショップ講演 「大学間連携統計教育プロジェクト 日本・ドイツ・米国の状況と国際連携に向けて」 (山口教授)
	5	第18回 統計教育部会 定例会議
	6	Rを活用した統計教育におけるファカルティ・ディベロップメント (FD) 勉強会 (統計教育大学間連携ネットワーク主催)
	6~9	第3回 S1科目講習会 専門社会調査士取得希望者のための講習会 ((社)社会調査協会 主催)
	7	第8回センター連絡会議
	12	第5回 統計教育大学間連携ネットワーク 外部評価委員会 (山口教授)
	14	第63回統計セミナー開催 (日本統計協会 主催)
	16	第4回 統計教育大学間連携ネットワーク 質保証委員会 (小野寺助教)
		第11回 政府統計部会 定例会議
	19	応用統計学シンポジウムII (応用統計学会 主催)
	23~29	社会調査士・専門社会調査士資格 提出期間
	27	2012年度スポーツ解析コンペティション特別講演会 (共催)

## 2.公開講演会・公開講座・セミナー等 開催実績

2012年度は様々なカテゴリーの公開講座と公開講演会が行われ、幅広い層に関心を頂いた。公開講座はマイクロソフト社と立教大学がコラボレーションした「考える技術と伝える技術」をテーマにしたもので、ロジカルシンキングの手法やデータベースの活用法など学生のみならず社会人の参加も多く見られた。なお、2012年度に開講された公開講座は2013年度にE-learningコンテンツとしてメディアセンターより公開される予定である。

公開講演会についても2012年度は「東日本大震災と統計のかかわり」をテーマとして2回開催された。10月8日に開催された講演会では被災自治体の首長である長野県栄村島田茂樹村長に登壇いただき、復旧と復興をめぐる現在の状況についての状況を講演頂いた。

### 1)公開講演会・公開講座

#### ◆連続公開講座

テーマ『考える技術・伝える技術～立教型ビジネス基礎講座～』

講師 中川 哲氏（日本マイクロソフト(株) パブリックセクター統括本部 業務執行役員  
文教ソリューション本部長）

西脇 資哲氏（日本マイクロソフト(株) エバンジェリスト）

小柳津 篤氏（日本マイクロソフト(株) エンタープライズ&パートナーグループ  
エグゼクティブアドバイザー）

\*第1回 前半：『ビジネスの現場でいま何が起きているのか？～ビジネスの推進者～』

後半：『ビジネスの課題を見つけ出し解決する。～分析力/洞察力～』

開催日 2012年6月2日(土)

場 所 池袋キャンパス 8号館 8201 教室

\*第2回『アイデアをまとめてビジネスを組み立てる。～論理的思考・構成員力～』

開催日 2012年6月9日(土)

場 所 池袋キャンパス 14号館 D501 教室

\*第3回『説得力のあるプレゼンでビジネスに勝つ。～表現力・訴求力～』

開催日 2012年6月23日(土)

場 所 池袋キャンパス 4号館 4342 教室

\*第4回『ビジネスをドライブする力をつける。～コミュニケーション力・交渉力～』

開催日 2012年6月30日(土)

場 所 池袋キャンパス マキムホール M301 教室

\*第5回『ビジネスに勝てるチームを作る。～マネジメント力・統制力～』

『パネルディスカッション、Q&A。～パネル Q&A+フィードバック記入～』

開催日 2012年7月14日(土)

場 所 池袋キャンパス マキムホール M301 教室

#### ◆第4回 公開講演会

テーマ『東日本大震災、その日相馬市では何がおこったのか』

～産学官による GIS（地理情報システム）を用いた支援活動～』

開催日 2012年6月25日(月)

場 所 立教大学池袋キャンパス 11号館 A301 教室

主 催 社会情報教育研究センター

参加人数 60名

講演者：長谷川 普一氏（新潟市都市政策部 GIS センター）

◆第5回 公開講演会

テーマ 3.12 震災を乗り越え新たな歩み始める長野県栄村『統計情報の活用と復興計画』

開催日 2012年10月08日(月)

場 所 立教大学池袋キャンパス 12号館 第一会議室

主 催 社会情報教育研究センター

参加人数 40名

講演者・タイトル 島田 茂樹氏（長野県栄村長）

2) CSI 統計分析・活用セミナー

社会情報教育研究センターは統計教育の普及・統計技法の高度化を目的として以下のセミナーを開催している。近年は、幅広い分野(学部生～大学院～研究者)からのニーズもあり、教育・研究分野における活用のみならず、卒業後、社会で実践的に統計分析を行うスキルを身に付けることができるため、高い人気を誇っている。

◆2012 年前期 CSI 統計分析セミナー（池袋・新座キャンパス開催）

～統計分析ソフト SPSS と R による統計分析～

<セミナー概要>

- ・ SPSS の基礎：データの作成・単純集計・グラフの作成
- ・ クロス集計表のマスター：二重クロス表・カイ 2 乗検定・三重クロス表・SPSS での使用法
- ・ 相関係数をマスターする：相関係数・偏相関係数・SPSS での使用法
- ・ SPSS による多変量解析：多変量解析とは？・回帰分析・因子分析・SPSS での使用例
- ・ R コマンダーの基礎(1)：度数分布表・代表値と散布度の指標・クロス集計表・相関係数
- ・ R コマンダーの基礎(2)：回帰分析・因子分析
- ・ R の基礎：インストール方法・データの入力・ライブラリーの読み込み・基本文法

<IA コース>

講義内容 統計分析ソフト SPSS の基礎

開催日 2012年4月25日(水)

場 所 立教大学池袋キャンパス 8号館 8501 教室

講 師 金澤 悠介（社会情報教育研究センター 助教）

参加人数 4名

<IB コース>

講義内容 クロス集計表をマスターする

開催日 2012年5月9日(水)

場 所 立教大学池袋キャンパス 8号館 8501 教室

講 師 金澤 悠介（社会情報教育研究センター 助教）

参加人数 6名



#### <IC コース>

講義内容 相関係数をマスターする  
開催日 2012年5月23日(水)  
場 所 立教大学池袋キャンパス 8号館 8501教室  
講 師 金澤 悠介(社会情報教育研究センター 助教)  
参加人数 4名

#### <ID コース>

講義内容 SPSSによる多変量解析  
開催日 2012年6月6日(水)  
場 所 立教大学池袋キャンパス 8号館 8501教室  
講 師 金澤 悠介(社会情報教育研究センター 助教)  
参加人数 7名

#### <IE コース>

講義内容 Rコマンドの基礎(1)  
開催日 2012年6月20日(水)  
場 所 立教大学池袋キャンパス 8号館 8501教室  
講 師 田中 潮(社会情報教育研究センター 学術調査員)  
参加人数 5名

#### <IF コース>

講義内容 Rコマンドの基礎(2)  
開催日 2012年7月4日(水)  
場 所 立教大学池袋キャンパス 8号館 8501教室  
講 師 田中 潮(社会情報教育研究センター 学術調査員)  
参加人数 2名

#### <IG コース>

講義内容 Rの基礎  
開催日 2012年7月18日(水)  
場 所 立教大学池袋キャンパス 8号館 8501教室  
講 師 田中 潮(社会情報教育研究センター 学術調査員)  
参加人数 2名

#### <NA コース>

講義内容 Rコマンドの基礎(1)  
開催日 2012年5月14日(月)  
場 所 立教大学新座キャンパス 8号館 N822教室  
講 師 田中 潮(社会情報教育研究センター 学術調査員)  
参加人数 0名(開講中止)

#### <NB コース>

講義内容 Rコマンドの基礎(2)  
開催日 2012年6月11日(月)

場 所 立教大学新座キャンパス 8号館 N822 教室  
講 師 田中 潮 (社会情報教育研究センター 学術調査員)  
参加人数 1名

#### <NC コース>

講義内容 Rの基礎  
開催日 2012年7月09日(水)  
場 所 立教大学新座キャンパス 8号館 N823 教室  
講 師 田中 潮 (社会情報教育研究センター 学術調査員)  
参加人数 1名

#### ◆2012年後期 CSI 統計分析セミナー (池袋・新座キャンパス開催)

～統計分析ソフト SPSS と R による統計分析～

##### <セミナー概要>

- ・回帰分析入門(1)：単回帰分析・重回帰分析・SPSS/AMOS での使用方法
- ・回帰分析入門(2)：ダミー変数・回帰診断・SPSS/AMOS での使用方法
- ・因子分析入門：因子分析の概要・最尤法による因子分析・SPSS/AMOS での使用例
- ・共分散構造分析入門(1)：共分散構造分析とは？・AMOS での使用方法
- ・共分散構造分析入門(2)：共分散構造分析の発展的課題・AMOS での使用方法
- ・R コマンドの基礎(1)：度数分布表・代表値と散布度の指標・クロス集計表
- ・R の基礎：インストール方法・データ入力・パッケージ・基本文法

#### <IA コース>

講義内容 回帰分析入門(1)  
開催日 2012年10月03日(水)  
場 所 立教大学池袋キャンパス 8号館 8402 教室  
講 師 田中 潮 (社会情報教育研究センター 学術調査員)  
参加人数 9名

#### <IB コース>

講義内容 回帰分析入門(2)  
開催日 2012年10月10日(水)  
場 所 立教大学池袋キャンパス 8号館 8402 教室  
講 師 田中 潮 (社会情報教育研究センター 学術調査員)  
参加人数 10名

#### <IC コース>

講義内容 因子分析入門  
開催日 2012年10月24日(水)  
場 所 立教大学池袋キャンパス 8号館 8402 教室  
講 師 金澤 悠介 (社会情報教育研究センター 助教)  
参加人数 9名

#### <ID コース>

講義内容 共分散構造分析入門（1）  
開催日 2012年11月7日（水）  
場 所 立教大学池袋キャンパス 8号館 8402 教室  
講 師 金澤 悠介（社会情報教育研究センター 助教）  
参加人数 13名

<IE コース>

講義内容 共分散構造分析入門（2）  
開催日 2012年11月21日（水）  
場 所 立教大学池袋キャンパス 8号館 8402 教室  
講 師 金澤 悠介（社会情報教育研究センター 助教）  
参加人数 6名

<IF コース>

講義内容 R コマンダーの基礎（1）  
開催日 2012年12月5日（水）  
場 所 立教大学池袋キャンパス 8号館 8402 教室  
講 師 田中 潮（社会情報教育研究センター 学術調査員）  
参加人数 1名

<IG コース>

講義内容 R コマンダーの基礎（2）  
開催日 2012年12月19日（水）  
場 所 立教大学池袋キャンパス 8号館 8402 教室  
講 師 田中 潮（社会情報教育研究センター 学術調査員）  
参加人数 0名（開講中止）

<NA コース>

講義内容 R コマンダーの基礎（1）  
開催日 2012年10月15日（月）  
場 所 立教大学池袋新座キャンパス 8号館 N823 教室  
講 師 田中 潮（社会情報教育研究センター 学術調査員）  
参加人数 4名

<NB コース>

講義内容 R コマンダーの基礎（2）  
開催日 2012年11月12日（月）  
場 所 立教大学新座キャンパス 8号館 N823 教室  
講 師 田中 潮（社会情報教育研究センター 学術調査員）  
参加人数 4名

<NC コース>

講義内容 R の基礎  
開催日 2012年12月10日（月）

場 所 立教大学新座キャンパス 8号館 N823 教室  
講 師 田中 潮 (社会情報教育研究センター 学術調査員)  
参加人数 4名

◆2012年前期 CSI 統計活用セミナー (池袋・新座キャンパス開催)

<セミナー目的と概要>

本セミナーでは社会情報教育研究センターが提供する統計利活用のためのコンテンツを使って、公的統計学習、経済波及効果分析、統計地図の作成などを行う。

- ・『波及効果分析(RECO)』:東京スカイツリーの建設効果など経済波及効果の分析を行う
- ・立教版『G-Census』(統計GIS):国や地域の地図を作成し、地図上に必要な統計データを表示する
- ・『SPSS ミクロ統計分析入門』:SPSS を用いたミクロデータ分析を行い、匿名データ等を活用した高度な分析を行う

<Aコース>

講義内容: 経済波及効果を測定する (RECOの利用)  
開催日 2012年5月14日(月)  
場 所 立教大学池袋キャンパス 8号館 8402 教室  
講 師 倉田 知秋 (社会情報教育研究センター 学術調査員)  
参加人数 21名

<Bコース>

講義内容: 経済波及効果を測定する (RECOの利用)  
開催日 2012年5月17日(木)  
場 所 立教大学新座キャンパス 8号館 N822 教室  
講 師 小野寺 剛 (社会情報教育研究センター 助教)  
参加人数 0名(開講中止)

<Cコース>

講義内容 統計地図を作成する (G-Census の利用)  
開催日 2012年6月18日(月)  
場 所 立教大学池袋キャンパス 8号館 8402 教室  
講 師 小西 純 ((公財)統計情報研究開発センター 研究員)  
参加人数 41名

<Dコース>

講義内容 SPSS ミクロ統計分析入門  
開催日 2012年7月9日(月)  
場 所 立教大学池袋キャンパス 8号館 8501 教室  
講 師 小野寺 剛 (社会情報教育研究センター 助教)  
参加人数 0名(開講中止)

<Eコース>

講義内容 SPSS ミクロ統計分析入門

開催日 2012年7月12日(木)  
場 所 立教大学新座キャンパス 8号館 N823 教室  
講 師 小野寺 剛(社会情報教育研究センター 助教)  
参加人数 0名(開講中止)

◆2012年後期 CSI 統計活用セミナー(池袋・新座キャンパス開催)

<セミナー目的と概要>

- ・『将来人口推計(POCO)』:国や地域の将来人口推計を行い、人口ピラミッドを作成する。
- ・立教版『G-Census』(統計GIS):国や地域の地図を作成し、地図上に必要な統計データを表示する
- ・『SPSS ミクロ統計分析入門』:SPSS を用いたマイクロデータ分析を行い、匿名データ等を活用した高度な分析を行う

<Aコース>

講義内容 将来人口測定コンテンツ(POCOの利用)  
開催日 2012年10月26日(金)  
場 所 立教大学新座キャンパス 8号館 N823 教室  
講 師 小野寺 剛(社会情報教育研究センター 助教)  
参加人数 1名

<Bコース>

講義内容 将来人口測定コンテンツ(POCOの利用)  
開催日 2012年10月29日(月)  
場 所 立教大学池袋キャンパス 8号館 8402 教室  
講 師 藤野 裕(経済学部 助教)  
参加人数 2名

<Cコース>

講義内容 統計地図を作成する(G-Censusの利用)  
開催日 2012年11月26日(月)  
場 所 立教大学池袋キャンパス 8号館 8402 教室  
講 師 小西 純((公財)統計情報研究開発センター 研究員)  
参加人数 15名

<Dコース>

講義内容 SPSS ミクロ統計分析入門 池袋  
開催日 2012年12月10日(木)  
場 所 立教大学新座キャンパス 8号館 8402 教室  
講 師 小野寺 剛(社会情報教育研究センター 助教)  
参加人数 7名

<Eコース>

講義内容 SPSS ミクロ統計分析入門 新座  
開催日 2012年12月6日(木)

場 所 立教大学新座キャンパス 8号館 N823 教室  
講 師 小野寺 剛 (社会情報教育研究センター 助教)  
参加人数 2名

### 3) 統計検定対策セミナー

#### <セミナー目的と概要>

2012年11月18日に開催された立教大学団体受験にて受験した学生に、受験対象のレベルに合わせた統計検定試験対策のセミナーを3回開催した。

- 講義内容 統計検定全体の試験対策、2級・3級受験者を対象としたガイダンスセミナー

開催日 2012年10月2日(火)

場 所 立教大学池袋キャンパス 8号館 8402 教室

講 師 山口 和範 (経営学部 教授)

参加人数 5名

- 講義内容 第1回目統計検定2・3級の試験対策セミナー

開催日 2012年10月23日(火)

場 所 立教大学池袋キャンパス 8号館 8402 教室・CSI 会議スペース

講 師 2級対象：金澤 悠介 (社会情報教育研究センター 助教)

3級対象：田中 潮 (社会情報教育研究センター 学術調査員)

参加人数 2級：2名 3級：14名

- 講義内容 第2回見統計検定2・3級の試験対策セミナー

開催日 2012年10月30日(火)

場 所 立教大学池袋キャンパス 8号館 8402 教室・CSI 会議スペース

講 師 2級対象者：金澤 悠介 (社会情報教育研究センター 助教)

3級対象者：田中 潮 (社会情報教育研究センター 学術調査員)

参加人数 2級：5名 3級：11名

- 講義内容 第3回目統計検定2・3級の試験対策セミナーCSI 会議スペース

開催日 2012年11月13日(火)

場 所 立教大学池袋キャンパス 8号館 8402 教室

講 師 2級対象者：金澤 悠介 (社会情報教育研究センター 助教)

3級対象者：田中 潮 (社会情報教育研究センター 学術調査員)

参加人数 2級：6名 3級：12名

#### ◆高校生向け統計教育セミナー

講義内容 「統計的思考力：仮説の検証ーデータを活用し、判断するー」

開催日 2012年8月8日(月)

場 所 立教大学池袋キャンパス 8号館 8402 教室

講 師 山口 和範 (経営学部 教授)

参加者 千葉市立千葉高等学校 の生徒・引率教諭 計24名

### 4) CSI 統計研究会

CSI 統計研究会は、統計実務者や統計研究の第一人者をゲストに迎え、統計の現場で起こっている事や統計の質保証をテーマに報告をしていただいた。参加者も日本銀行・総務省をはじめとした統計実務者に非常に多くの関心が集まり、研究会も質の高い議論が繰り広げられた。今後も統計関係者の関心が高いトピックを中心に扱っていく予定である。

#### <第4回 CSI 統計研究会>

都市基盤整備におけるGISを用いた空間統計の活用～柏市の事例をもとに～  
開 催 2012年9月27日(木)  
場 所 立教大学 池袋キャンパス 15号館 第1会議室  
講 師 細江 まゆみ(財団法人 柏市みどりの基金)  
参加人数 14名

#### <第5回 CSI 統計研究会>

統計の品質論とその実践とは?～世界の動きから～  
開 催 2013年1月22日(火)  
場 所 立教大学池袋キャンパス 7号館 7201教室  
講 師 伊藤 陽一(法政大学 名誉教授)  
参加者 24名

### 5) 共催・後援セミナー

#### <高校数学・新課程研修会>

講義内容 「高校数学・新課程研修会 2012 夏～動き始めた新課程～」  
開催日 2012年7月29日(日)  
場 所 立教大学池袋キャンパス マキムホール M201教室  
講演者 長尾 篤志(文部科学省初等中等教育局 視学官)  
椿 広計(情報・システム研究機構 統計数理研究所 副所長)  
矢崎成俊(明治大学理工学部数学科 准教授)  
細谷和博(東京大学教育学部附属中等教育学校 教諭)  
大淵 智勝(事務局/予備校講師)  
司会: 辰巳丈夫(東京農工大学 准教授)

#### <アドバンスド社会調査士セミナー>

専門社会調査士取得(8条規定)希望者と社会調査実務向上をめざす人のためのアドバンスド社会調査セミナーの開催協力を行った。本セミナーは、専門社会調査士(正規)の標準カリキュラムH、I、Jの3科目の内容に対応しており、大学院での専門的な社会調査法の授業内容に相当する集中セミナーが実施された。

第1日目 2012年8月3日(金)  
第2日目 2012年8月4日(土)  
第3日目 2012年8月5日(日)  
第4日目 2012年8月6日(月)  
場 所 立教大学 池袋キャンパス D603教室、 8号館 8404教室  
講 師 盛山 和夫(関西学院大学)

鈴木 督久 (日経リサーチ)  
保田 時男 (関西大学)  
丸岡 吉人 (電通)  
川端 亮 (大阪大学)  
後藤 範章 (日本大学)  
古賀 正義 (中央大学)

- 講座
- ① 社会調査の企画と設計
  - ② 社会調査データの分析の論理
  - ③ 実践的立場から社会調査法を考える
  - ④ 世論調査の現状と課題
  - ⑤ 重回帰分析の意義
  - ⑥ マルチレベル分析の考え方
  - ⑦ マルチレベル分析の実際
  - ⑧ マルチレベル分析のバリエーション
  - ⑨ マーケティング・リサーチの現状と課題
  - ⑩ マーケティング・リサーチのトピックス(ミニ演習を含む)
  - ⑪ 宗教調査の方法
  - ⑫ 質的データのコンピュータ・コーディング
  - ⑬ 質的調査の有効性と分析方法を考える
  - ⑭ インタビューによる若者調査の事例から
  - ⑮ 都市社会調査の方法と展開
  - ⑯ ビジュアル・リサーチ・メソッドの可能性

#### <第 62 回統計セミナー>

『ビッグデータ時代における ICT を活用した問題解決力育成を考える  
～新課程における統計教育のあり方：教科：数学と情報の連携の必要性～』

開催日 2012 年 9 月 29 日 (土)

場 所 立教大学 池袋キャンパス 11 号館地下 AB01 教室

主 催 財団法人 日本統計協会

共 催 社会情報教育研究センター、日本統計学会、応用統計学会、

後 援 総務省統計局、埼玉県教育委員会、日本数学教育学会、全国康応学校情報教育研究会、  
高校数学・新課程を考える会、

講演者 長尾 篤志 (文部科学省初等中等教育局 視学官)

永井 克昇 (文部科学省初等中等教育局 視学官)

村井 純 (慶應義塾大学環境学部長・教授)

田栗 正章 (中央大学大学院理工学研究科教授、大学入試センター顧問)



## < 立教大学グローバル消費文化研究会 公開学術フォーラム >

### 第1回立教大学グローバル消費文化研究会 公開学術フォーラム

開催日 2012年11月23日(金・祝)

場 所 池袋ステーションコンファレンス Room2 (メトロポリタンプラザビル 12F)

主 催 立教大学グローバル消費文化研究会

共 催 立教大学社会情報教育研究センター

講演者

水原俊博 (信州大学人文学部 准教授)

間々田孝夫 (立教大学社会学部 教授)

廣瀬毅士 (立教大学社会情報教育研究センター 助教)

寺島拓幸 (文京学院大学人間学部 助教)

鈴木康治 (早稲田大学社会科学総合学術院 助教)

松田久一 ((株)ジェイ・エム・アール生活総合研究所 代表)

三浦展 ((株)カルチャースタディーズ研究所 主宰)

柄本美代子 (東京国際大学人間社会学部 准教授)

## < 第2回S1科目講習会 >

専門社会調査士取得希望者のための講習会。社会調査士科目A、B、およびC科目に対応する。S2科目講習会と組み合わせることで専門社会調査士取得を目指す大学院生・および実務者の専門社会調査士資格取得を支援する講習会である。例年開催協力を行っている。

◇第1日目 2013年3月6日(水)

◇第2日目 2013年3月7日(木)

◇第3日目 2013年3月8日(金)

◇第4日目 2013年3月9日(土)

開催場所 立教大学 池袋キャンパス 8号館8404教室、11号館A201教室

主 催 (社)社会調査協会

講 師 菅野 剛 (日本大学)

三井 さよ (法政大学)

木村 好美 (早稲田大学)

飯島 賢志 (武蔵丘短期大学)

廣瀬 毅士 (立教大学)

### 講習会内容

1. オリエンテーション：社会調査の意義と役割
2. 社会調査の歴史・倫理
3. 社会調査の種類と実例：政府統計と様々な社会調査
4. 質的調査の概要：事例研究法・フィールドワーク
5. 多様な質的調査の方法と実際
6. 量的調査の企画・設計：調査テーマ・仮説構成について
7. 質問文・選択肢の作り方と調査票の構成

8. 調査の実施方法：調査モードと回収率
9. サンプルの考え方と理論
10. サンプルの実際：種類と方法、サンプル・サイズの決定
11. 調査データの整理：エディティング・コーディング・データ入力
12. 単純集計・度数分布とデータクリーニング
13. 平均・分散・標準偏差
14. 分布の読み方
15. クロス集計の読み方
16. 因果関係と相関関係
17. 調査データ・グラフを読み解く能力
18. 調査報告書のまとめかた
19. 全体のまとめ
20. 最終試験

### <第63回統計セミナー>

『東南アジアの経済発展のポイントは何か』

～東アジアの経済活動について、メコン川流域諸国をはじめとし、近年注目を集めているミャンマーの実情を紹介するとともにアセアン諸国の今後の経済活動を展望する。～

開催日 2013年3月14日（木）

場 所 立教大学池袋キャンパス8号館8201教室

主 催 財団法人 日本統計協会

共 催 立教大学 社会情報教育研究センター、日本統計学会、統計関連学会連合

後 援 総務省統計局、日本統計学会、統計関連学会連合

講演者 山沖 義和（財務省大臣官房 参事官）

工藤 年博（（独）日本貿易振興機構・アジア経済研究企画部）

北畠 重顕（（公）国際金融情報センターアジア第2部長）

### <応用統計学シンポジウム>

『応用統計学シンポジウムⅡ～グローバル時代の統計、統計学』

開催日 2013年3月19日（火）

場 所 立教大学 池袋キャンパス本館2階 1203教室

主 催 応用統計学会

後 援 立教大学社会情報教育研究センター

講演者 川崎 茂（応用統計学会会長・日本大学）

島村 史郎（元総務省統計局長）

竹内 恵行（大阪大学）

椿 広計（統計数理研究所）

### <2012年度スポーツ解析コンペティション特別講演会>

開催日 2013年3月27日（水）

場 所 立教大学 池袋キャンパス 太刀川記念館3階多目的ホール

- 主 催 立教大学社会情報教育研究センター、統計数理研究所、日本統計学会スポーツ統計分  
科会、日本統計学会統計教育分科会、日本統計学会統計教育委員会、統計数理研究所  
共同研究『スポーツデータの統計解析に関する研究』
- 共 催 データスタジアム (株)
- 講演 1 バレーボールにおけるデータ分析・活用の現状
- 講演 2 Footbollab の挑戦～CBP (チャンスビルディングポイント) の算出による選手評価への  
トライ
- 講 師 渡辺 啓太 (バレーボールアナリスト、日本オリンピック委員会専任情報・  
科学スタッフ)
- 木下 陽介 (株式会社 博報堂 研究開発局)

## 6)外部機関からの依頼講演・講義・その他

社会情報教育研究センターでは数多くの統計データを活用し、コンテンツ作成  
や調査分析を行っている。その結果、官公庁や企業・団体等から出張講義・講演  
依頼がくる機会が増加している。以下、依頼内容を記載する。

そのような外部での活動をつうじて、教育・研究機関として幅広い統計データ  
を活用・普及活動を実施していることが、国内外にて幅広く認知されている。そ  
の結果、内閣府統計委員会第三ワーキンググループで意見答申を行った。これは、  
我が国の統計作成および普及に大きく寄与しているといえる。

### ◆『総務省統計局統計研修所中堅職員過程』講義

- 開催日 2012年6月12日(火)
- 主 催 総務省 統計研修所
- 場 所 総務省統計局統計研修所
- 講 師 菊地 進 (経済学部 教授)
- テーマ 「地域経済と統計」
- 対 象 国及び地方自治体の統計関係職員

### ◆『統計委員会基本計画部会第3ワーキンググループ会合(第3回)』

- 開催日 2012年7月25日(水)
- 主 催 内閣府 統計委員会第3ワーキンググループ
- 場 所 内閣府 中央合同庁舎第4号館4階 共用第2特別会議室
- 学識者 菊地 進 (経済学部 教授) ※定例会合に学識経験者として招聘。
- 会議録 [http://www5.cao.go.jp/statistics/2012wg/wg3/wg3\\_3/gaiyou.pdf](http://www5.cao.go.jp/statistics/2012wg/wg3/wg3_3/gaiyou.pdf)
- 内 容 6月21日に内閣府統計委員会事務局より「立教大学社会情報教育研究センターにお  
ける公的統計学習と二次的利用の取り組み」についてヒアリングを受けた。これが  
きっかけとなり、「第3ワーキング」での報告となった。これは統計委員会の正式  
の会議体で、第1次統計基本計画の検証と第2次基本計画へ向けた策定作業を行っ  
ている。「第3ワーキング」での社会情報教育研究センターが実施する、事業への  
取り組み紹介により、大学での公的統計の利活用教育強化の方向が強調されるよ  
うになると推察される。

### ◆『リーマンショック、大震災後の中小企業景況の行方』公開シンポジウム

開催日 2012年8月7日(火)  
主催 立教大学経済研究所、中小企業家同友会、東京中小企業家同友会  
場所 立教大学 池袋キャンパス 8202 教室  
講演者 菊地 進(経済学部 教授)  
テーマ 「DOR 調査に見る経営指針策定の意義と実践の成果」  
対象 国及び地方自治体の統計関係職員

◆『現場対応型研修～政策と統計～』講演会

開催日 2012年11月5日(月)  
主催 大分県庁  
場所 大分県庁会議室  
講演者 菊地 進(経済学部 教授)  
テーマ 「政策と統計－政策形成と地方統計の利活用－」  
対象 大分県統計関係職員、大分県内市町村統計関係職員

◆『特別講座～政策と統計～』講義

開催日 2012年11月19日(月)  
主催 総務省統計研修所  
場所 総務省統計研修所  
講師 菊地 進(経済学部 教授)  
テーマ 「政策形成における統計の役割」  
対象 国及び地方自治体の統計関係職員

◆平成24年度統計情報セミナー『行政とビジネスにおける統計データ利用の可能性』東京開催

開催日 2013年2月13日(月)  
主催 (公財)統計情報研究開発センター  
場所 ベルサール神保町  
講演者 菊地 進(経済学部 教授)  
テーマ 「地方自治体における政策形成と統計利用」  
対象 国及び地方自治体の統計関係職員、シンクタンク、大学等の研究者、一般

◆平成24年度統計情報セミナー『行政とビジネスにおける統計データ利用の可能性』大阪開催

開催日 2013年2月20日(月)  
主催 (公財)統計情報研究開発センター  
場所 大阪国際会議場  
講演者 菊地 進(経済学部 教授)  
テーマ 「地方自治体における政策形成と統計利用」  
対象 国及び地方自治体の統計関係職員、シンクタンク、大学等の研究者、一般

◆「地方統計職員の統計能力向上に資する研修方策に係る意見交換会」

アドバイザーとして招聘

開催日:2013年3月21日(木)  
主催:総務省 統計研修所  
場所:総務省統計研修所 3F会議室

出席：日本統計協会、統計数理研究所、立教大学社会情報教育研究センター  
アドバイザー：菊地 進(経済学部 教授)

### 3.調査・研究報告 等

#### <調査報告書>

「3.12 震災、復興への課題と統計情報の役割—結いの心で築く新生栄村—」

発行 2013年3月25日 200部

編著 菊地 進(経済学部 教授)

#### <報告書概要>

本報告書は、2011年3月12日の長野県北部地震の被災地となった長野県下水内郡栄村の復旧・復興の現状についての調査報告書の続編である。『立教大学社会情報教育研究センター』のメンバーは、2011年8月8日～10日に栄村を訪れ、現地調査をするとともに、島田茂樹村長をはじめ産業建設課、商工観光課、JA北信州みゆきなど関係機関の担当者にヒアリング調査を実施した。その結果を取りまとめ発行したのが、立教大学社会情報教育研究センター編『3.12 震災を乗り越え、結いの心で美しい自然を守る—豪雪の地：長野県栄村を統計で捉える—』（2012年3月）である。本報告書はこの続編にあたるものである。

#### <報告書目次>

はじめに

##### 第1部

第1章 写真で伝える現在の栄村 —2013年—

第2章 2012年度：村役場および関係機関の復興に関する動向

##### 第2部

第1章 被災地復興に関する国の政策と制度 —東日本大震災復興特別区域法—

第2章 長野県の栄村への支援 —復旧・復興における県の役割—

第3章 震災復興と変容するガバナンス

第4章 栄村の歳入歳出からみた復旧・復興への取り組み

第5章 栄村における「農業の6次産業化」への取り組み—契約農業から農産加工へ—

第6章 復興への息吹き—地域資源の積極的活用としての文化財保全を考える—

##### 第3部

1. 長野県栄村役場産業建設課長 齋藤保氏インタビュー

2. 第5回社会情報教育研究センター公開講演会 開催概要

『3.12 震災を乗り越え新たな歩みを始める長野県栄村—統計情報の活用と復興計画—』

#### <執筆者一覧>

菊地 進 (経済学部 教授)	編著
小野寺 剛 (社会情報教育研究センター 助教)	第2部 第1章
藤野 裕 (経済学部 助教)	第2部 第4章
関根 佳恵 (経済学部 助教)	第2部 第5章
三田 泰雅 (社会情報教育研究センター 学術調査員)	第2部 第3章
倉田 知秋 (社会情報教育研究センター 学術調査員)	第2部 第2章
荒井 美智江 (社会情報教育研究センター 事務局)	第1部 第1～2章
	第2部 第6章
	第3部

#### 4.資格支援事業

##### 1)社会調査士資格支援

「社会調査士」と「専門社会調査士」の2つの資格は、いずれも一般社団法人 社会調査協会が認定するものである。社会調査の知識と技能を有する専門的な人材の育成を目的としている。

いずれの資格も、専門知識や技法を用いて、世論や市場動向、社会事象等をとらえる能力を有する「社会調査の専門家」であることを想定しており、「社会調査士」は社会調査の基礎能力を有する専門家として、「専門社会調査士」はさらに高度な調査能力を身につけたプロの社会調査士と位置づけられている。

社会情報教育研究センターでは、立教大学全体の教育組織会員として資格支援事業の統括および一元化を行っている。また社会情報教育研究センター助教が連絡責任者となり、学内の調査士科目申請登録のサポートや学生の資格取得支援を行っている。

2012年3月より、指定科目証明書発行システムを当センターに全面的に移行するプロジェクトを実施し、2012年6月より池袋・新座キャンパス両キャンパスにおいてシステム運用を開始した。これにより池袋キャンパス教務事務センターおよび新座キャンパス事務部教務課の業務負担が軽減し、さらに各キャンパスにおける学生の申請の利便性が向上した。また、システム導入による学生の証明書発行料金負担の軽減も図られた。2012年度より社会学部において「社会学部共通科目」が設置され、改定後のカリキュラムに対応するべく指定科目の認定手続きを遺漏なく行うため、当センターと学部連絡責任者との間で数回の打ち合わせを行い、指定科目認定申請作業を行った。

また、2012年度は新たに現代心理学部心理学科に社会調査士科目導入が行われた。2013年度の新規導入に向け、現代心理学部・新座教務・社会情報教育研究センターの三者で連携し、科目設計・新規科目導入・申請書作成など一連の申請業務を進めた。

##### ◇社会調査士・専門社会調査士 資格制度導入学部・研究科 一覧

- ・全学共通カリキュラム（オンデマンド授業：社会調査士科目 A～E 科目設置）
- ・社会学部 全学科
- ・経済学部 全学科
- ・経営学部 全学科
- ・観光学部 全学科
- ・コミュニティ福祉学部 コミュニティ政策学科
- ・現代心理学部 心理学科（2013年度より導入開始）
- ・大学院 社会学研究科
- ・大学院 コミュニティ福祉学研究科

##### ◇社会調査士（見込み）資格取得申請：前期申請者 66名・後期申請者 26名 合計 92名

社会調査士 資格取得申請 : 123名（2013年3月申請分）

専門社会調査士 資格取得申請 : 2名（2013年3月申請分）

（2013年4月1日現在）

##### \*社会調査士（見込み）・専門社会調査士キャンディデイト 申請

前期 申請期間 2012年6月1日（金）～6月20日（火）

提出期間 2012年6月4日（月）～6月22日（金）

後期 申請期間 2012年9月24日（月）～10月17日（水）

提出期間 2012年9月25日（火）～10月19日（金）

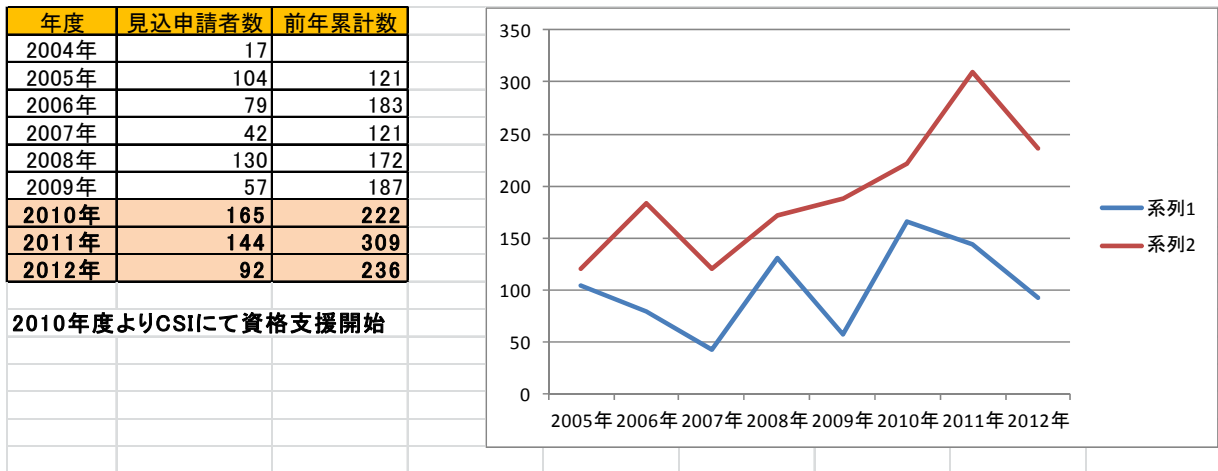
※専門社会調査士キャンディデイトは後期申請期間のみ取扱い。

\* 社会調査士・専門社会調査士 申請

申請期間 2013年2月28日(木)～3月14日(木)

提出期間 2013年3月23日(土)～3月29日(金)

◆立教大学における社会調査士資格ならびに見込み資格申請の推移について◆



立教大学における社会調査士資格の見込み申請者数は、上記表の通り増加傾向にある。また2010年度より当センターにて申請を受け付けているが、学生間においても当センターの認知度は深まっている。当センターへの申請に関する問い合わせ・相談件数も増加している。また下記の表は、2004年3月から2013年3月までの、社会調査士ならびに専門社会調査士の申請者数の推移である。この表をみても、年々申請者数は増加傾向にあるとともに、池袋・新座両キャンパスにおいても社会調査士資格を取得可能とする学部は増えており、全学部的に支援をおこなう機関の必要性は増していると考えられる。当センターにおいて学部・教務との連絡を密にとりつつ、支援体制をいっそう整えていく重要性を感じている。

社会調査士・専門社会調査士申請  
(2004年3月～2013年3月)

行ラベル	社会学部 現代文化学科	社会学部 社会学科	社会学部 メディア 社会学科	社会学部 産業関係学科	経済学部 経済学科	経営学部	経営学部 国際経営学科	経営学部 経営学科	コミュニティ 福祉学部 コミュニティ 政策学科	観光学部 交流文化 学科	観光学部 観光学科	社会学 研究科	総計
第1回(2004年)				3									3
第2回(2005年)		1		6									7
第3回(2006年)	12	13		17									42
第4回(2007年)	11	33		33									77
第5回(2008年)	16	12		28								1	57
第6回(2009年)	11	13		10									34
第7回(2010年)	18	19	11	2		1			36				87
第8回(2011年)	31	26	4				3	5	21			1	91
第9回(2012年)	32	32	20				1	6	32	10		2	135
第10回(2013年)	17	39	5		4		1	3	35	13	6	2	125
総計	148	188	40	99	4	1	5	14	124	23	6	6	658

※社会学部 産業関係学科は2011年より募集停止

## 2) 統計検定支援

2012年11月18日(日)に、一般財団法人統計質保証推進協会主催による、第2回統計検定が実施された。社会情報教育研究センターは2011年度より団体受験受付から統計検定対策セミナー開催など、統計検定受験に対し一元的な支援を行っている。統計検定は、文部科学省および日本学術会議による「大学教育の分野別質保証」の一環として実施された試験であり、統計教育の質保証との関連で位置づけることができる。

2012年度は、立教大学の学生・大学院生の団体受験者に対し、統計質保証推進協会から、統計検定の成績データ分析に同意することにより、団体受験料の補助が実施された。(個人情報が特定されない形で、受験データを統計検定の改善及び統計教育に関する調査研究に使用した)統計検定に合格すること自体が大学における統計教育の目的ではなく、その基礎の上に各学部の専門分野の知識を結びつけ、活用できるようにすることが肝要である。

実施日 2012年11月18日(日)

会場 立教大学 池袋キャンパス8号館 8304教室

2012年度 立教大学における統計検定志願者・受験者集計(級別)

学部別	学科	1級			2級			3級		
		志願者	受験者	欠席者	志願者	受験者	欠席者	志願者	受験者	欠席者
経済学部	経済学科	0	0	0	23	20	3	29	23	6
	経済政策学科	0	0	0	1	1	0	0	0	0
	会計ファイナンス学科	0	0	0	2	2	0	0	0	0
経営学部	経営学科	0	0	0	0	0	0	14	12	2
	国際経営学科	0	0	0	4	0	4	7	4	3
社会学部	社会学科	0	0	0	1	1	0	0	0	0
コミュニティ福祉学部	コミュニティ政策学科	0	0	0	1	0	1	3	2	1
大学院	経営学研究科	1	1	0	1	1	0	0	0	0
	21世紀社会デザイン研究科	0	0	0	1	1	0	1	1	0
合計		1	1	0	34	26	8	54	42	12

2012年度 立教大学における統計検定志願者・受験者集計(学部・学科別)

学部別	学科	学科別総数(1級～3級)			学部別総数(1級～3級)		
		志願者	受験者	欠席者	志願者	受験者	欠席者
経済学部	経済学科	52	43	9	55	46	9
	経済政策学科	1	1	0			
	会計ファイナンス学科	2	2	0			
経営学部	経営学科	14	12	2	25	16	9
	国際経営学科	11	4	7			
社会学部	社会学科	1	1	0	1	1	0



コミュニティ 福祉学部	コミュニティ政策学科	4	2	2	4	2	2
大学院	経営学研究科	2	2	0	2	2	0
	21世紀社会 デザイン研究科	2	2	0	2	2	0
合計		89	69	20	89	69	20

## 5.教育支援事業

### 1)正課課目の開発・提供

2012年度は、全学共通カリキュラムのオンデマンド授業 「社会調査入門」・「社会調査の技法」・「データ分析入門」・「データの科学」・「多変量解析入門」の運営を行った。なお、これら5科目は、社会調査士資格認定科目となっている。

#### 『社会調査入門』

担当者：廣瀬 毅士（社会情報教育研究センター 助教）

教育コーチ：三田 泰雅（社会情報教育研究センター 学術調査員）

授業の目標：社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を理解し、資料やデータの収集から分析までの諸過程に関する基礎的な事項について概説する。

社会調査士資格認定科目「A」に対応。

受講者数： 84名

授業内容：

- 第1講 社会調査の目的
- 第2講 社会調査の諸方法
- 第3講 社会調査の歴史：欧米
- 第4講 社会調査の歴史：日本
- 第5講 調査対象の選出方法
- 第6講 量的調査法の種類と特徴
- 第7講 質問紙調査の調査プロセス（1）
- 第8講 質問紙調査の調査プロセス（2）
- 第9講 質問紙調査の調査プロセス（2）
- 第10講 質的調査法の概要と種類
- 第11講 自由面接法の種類と方法
- 第12講 自由面接法の調査プロセス（1）
- 第13講 自由面接法の調査プロセス（2）
- 第14講 観察法・ドキュメント分析の調査プロセス
- 第15講 調査倫理と社会調査の諸問題

#### 『社会調査の技法』

担当者：廣瀬 毅士（社会情報教育研究センター 助教）

教育コーチ：三田 泰雅（社会情報教育研究センター 学術調査員）

授業の目標：社会調査の技術的な側面に注目し、調査の企画・設計からデータの収集と

整理に関する具体的な方法について解説する。社会調査士資格認定科目「B」に対応。

受講者数：94名

授業内容

- 第1講 社会調査とは何か
- 第2講 社会調査の企画
- 第3講 調査方法を選ぶ
- 第4講 標本設計の方法
- 第5講 標本調査の実際
- 第6講 調査票を作る
- 第7講 質問文の作り方
- 第8講 選択肢の作り方
- 第9講 調査の実施
- 第10講 データの作成と集計・分析
- 第11講 質的調査の概説
- 第12講 フィールドワーク
- 第13講 インタビュー
- 第14講 参与観察
- 第15講 論文・報告書の作成

## 『データ分析入門』

担当者：金澤 悠介（社会情報教育研究センター 助教）

教育コーチ：田中 潮（社会情報教育研究センター 学術調査員）

授業の目標：社会調査データの分析の基本的な知識を修得し、データの記述や簡単な二変数の関連を分析し、結果を適切に整理できるようになる。社会調査士資格認定科目「C」に対応。

受講者数：84名

授業内容

- 第1講 統計を学ぶ
- 第2講 変数の性質とデータ分析の方法
- 第3講 データを記述する（1）
- 第4講 データを記述する（2）
- 第5講 データを記述する（3）
- 第6講 データを記述する（4）
- 第7講 データを記述する（5）
- 第8講 データを記述する（6）
- 第9講 2つの変数の関連を探る（1）
- 第10講 2つの変数の関連を探る（2）
- 第11講 2つの変数の関連を探る（3）
- 第12講 2つの変数の関連を探る（4）
- 第13講 回帰分析の基礎
- 第14講 擬似相関と変数の統制
- 第15講 時系列データの分析

## 『データの科学』

担当者：小野寺 剛（社会情報教育研究センター 助教）

教育コーチ：倉田 知秋（社会情報教育研究センター 学術調査員）

授業の目標：社会について考え、課題を解決する道具として社会調査データ分析を位置づけ、データを用いて推論や仮説を検証するための手法を体得する。社会調査士資格認定科目「D」に対応。

受講者数：52名

授業内容

- 第1講 記述統計学と推測統計学
- 第2講 標本抽出（1）
- 第3講 確率と確率分布
- 第4講 標本抽出（2）
- 第5講 統計的推定（1）
- 第6講 統計的推定（2）
- 第7講 統計的推定（3）
- 第8講 統計的検定（1）
- 第9講 統計的検定（2）
- 第10講 2つの平均値の差の検定
- 第11講 分散分析
- 第12講 カイ2乗検定
- 第13講 3重クロス表の分析
- 第14講 相関と回帰
- 第15講 因果への挑戦

## 『多変量解析入門』

担当者：金澤 悠介（社会情報教育研究センター 助教）

教育コーチ：田中 潮（社会情報教育研究センター 学術調査員）

授業の目標：データに潜む重要な情報を明らかにする方法として多変量解析を位置づけ、基本的な考え方、代表的な手法、および社会における活用法を理解する。社会調査士資格認定科目「E」に対応。

受講者数：26名

授業内容

- 第1講 多変量解析とは何か？
- 第2講 記述統計学と推測統計学の復習
- 第3講 相関係数と偏相関係数
- 第4講 重回帰分析（1）
- 第5講 重回帰分析（2）
- 第6講 重回帰分析（3）
- 第7講 二項ロジスティック回帰分析
- 第8講 二元配置分散分析
- 第9講 三重クロス集計表の分析
- 第10講 因子分析（1）

- 第 11 講 因子分析 (2)
- 第 12 講 主成分分析
- 第 13 講 クラスタ分析
- 第 14 講 構造方程式モデリング
- 第 15 講 多変量解析のまとめ

## 2) 統計学習コンテンツ

大学教育における統計学習の普及・促進を目的として、2012 年度もコンテンツ作成およびソフトウェアのカスタマイズを実施した。2012 年度の改良点をふまえ、授業に積極的に活用していく。統計 GIS ソフトウェア「G-Census」については、2010 年度より経済学部「情報処理入門」10 クラスで授業におけるソフトウェア利用が行われている。また、授業課題としても積極的な活用が行われている。また、2012 年度より統計検定対策セミナーと合わせて、自学自習用コンテンツとして統計検定受験対策コンテンツの公開を開始した。今後も統計学習の普及に努めていく所存である。

### 2012 年度以前に作成した統計学習コンテンツ

[https://csi.rikkyo.ac.jp/statistical\\_learning/SitePages/Home.aspx](https://csi.rikkyo.ac.jp/statistical_learning/SitePages/Home.aspx)

### 2012 年度統計検定受験対策コンテンツ

[https://csi.rikkyo.ac.jp/statistics\\_certificate/Home.aspx#toukei04](https://csi.rikkyo.ac.jp/statistics_certificate/Home.aspx#toukei04)

## ◆ 2012 年度作成コンテンツ・ソフトウェア

### 1. 統計 GIS ソフトウェア「G-Census」の統計データ更新およびソフトウェアの機能改善

#### ・利用可能な統計データ

- ① 平成 22 年国政調査 (都道府県・市区町村) <新規>
- ② 平成 17 年国政調査 (都道府県・市区町村)
- ③ 平成 12 年国政調査 (都道府県・市区町村)
- ④ 平成 7 年国政調査 (都道府県・市区町村)
- ⑤ 平成 2 年国政調査 (都道府県・市区町村)
- ⑥ 昭和 60 年国政調査 (都道府県・市区町村)
- ⑦ 昭和 55 年国政調査 (都道府県・市区町村)
- ⑧ 昭和 50 年国政調査 (都道府県・市区町村)
- ⑨ 昭和 45 年国政調査 (都道府県・市区町村)
- ⑩ 昭和 40 年国政調査 (都道府県・市区町村)
- ⑪ 昭和 35 年国政調査 (都道府県・市区町村)
- ⑫ 平成 21 年経済センサス (基礎調査) (都道府県・市区町村) <新規>
- ⑬ 平成 18 年事業所・企業統計調査 (都道府県・市区町村)
- ⑭ 平成 13 年事業所・企業統計調査 (都道府県・市区町村)
- ⑮ 平成 23 年住民基本台帳人口移動報告 (都道府県) <更新>
- ⑯ 社会・人口統計体系 市区町村基礎データ (SSDS) (市区町村) <更新>
- ⑰ 市町村別将来推計人口 (市区町村) <更新>

#### ・ソフトウェアの機能改善

- ① 立教大学内の PC 教室環境への対応
- ② 起動速度の向上・バグ修正
- ③ ソフトウェア操作性向上・改善

## 2. 統計 GIS ソフトウェア「G-Census」学習コンテンツ

### ① G-Census 操作解説書

ソフトウェアの基本的な操作方法・便利な使い方を掲載。

### ② G-Census 活用事例集

G-Census を活用した統計分析事例（地域分布・地域特性）や授業で使用可能な演習事例を盛り込み、G-Census をつうじて地理情報システム（GIS）と統計分析をわかりやすく学習する。

## 3. 統計検定対策コンテンツ

### ① 統計検定（2・3級）コンテンツ 第1回～第4回

統計検定受験に必須の項目を学習し、統計検定合格を目指す。

## 3)大学間連携共同教育推進事業

### ◆ 統計教育大学間連携ネットワークの概要

統計教育大学間連携ネットワーク（以下連携 GP と略称）は、「文部科学省平成 24 年度大学間連携共同教育推進事業」に採択されたものである。「課題解決型人材育成のための標準的なカリキュラムコンテンツと教授法を整備し、さらに統計関連学会及び業界団体等の外部団体を加えた評価委員会による教育効果評価体制を構築することによって、統計教育の質保証制度を確立する」（連携 GP ホームページより引用）ために設立された。

2013 年 3 月現在、青山学院大学が代表校となり、8 大学（東京大学、大阪大学、総合研究大学院大学、青山学院大学、多摩大学、立教大学、早稲田大学、同志社大学）と 6 学会（応用統計学会、日本計算機統計学会、日本計量生物学会、日本行動計量学会、日本統計学会と日本分類学会）、および 8 団体（大学入試センター、日本アクチュアリー会、日本科学技術連盟、日本銀行、日本経済団体連合会、日本製薬工業協会、日本統計協会と日本マーケティング・リサーチ協会）が中核となる事業を展開している。

採択の期間は、H24 年度より 5 か年が計画されており、本取組では、社会で必要とされる課題解決力を持つ人材を育成するために、大学における統計教育の標準的カリキュラム体系を策定し、その体系に基づく標準的な達成度評価制度を整備して、統計教育の質保証を行う。そして連携ネットワークによる認証に基づく共通単位互換制度を設ける。いくつかの連携大学では、連携ネットワークの資源を活用することにより、統計学に関する学部及び大学院レベルの副プログラムや副専攻制度を導入する。連携ネットワークには教材や評価法に関する教育資源を蓄積し、本取組の終了後には、連携校のみならず広く全国の大学に資源を提供することにより、多くの大学で、社会が真に必要なとする統計教育を実施することが可能になる。（連携 GP ホームページより引用）

### ◆ 統計教育大学間連携ネットワーク委員会組織について

上記の法人および団体により構成されている連携 GP は、「運営委員会」、「カリキュラム策定委員会」、「質保証委員会」、「外部評価委員会」、「高大連携委員会」、「アドバイザリーボード」（海外研究者により構成されたアドバイス提供組織）、「システム開発ワーキンググループ」と、「FD 活動ワーキンググループ」を事業運営組織としている。各委員会では、個別の委員長が任命され、各委員会長主導のもと、事業が展開されている。各委員会の活動報告は、代表校の青山学院大学で開催される「運営委員会」（委員長：美添泰人）

において、各委員長がおこなっている。なお先述の「FD」とは、ファカルティ・ディベロップメント＝大学教員の教育能力を高めるための手段と方法のことを指す。

◆ 統計教育大学間連携ネットワークにおける立教大学社会情報教育研究センターの活動報告

立教大学も連携 GP の参加校であり、主に運営委員会、カリキュラム策定委員会、アドバイザーボード、およびシステム開発ワーキンググループに関連する事業を、本学社会情報教育研究センター・統計教育部会および政府統計部会メンバーが担当してきた。

統計教育部門リーダー：山口和範氏（経営学部 教授）が主導となり、金澤悠介（社会情報教育研究センター 助教）、小野寺助教（社会情報教育研究センター 助教）、田中潮（社会情報教育研究センター 学術調査員）と三田知実（社会情報教育研究センター プログラム・コーディネーター）が事業運営をおこなってきた。

とくに 2012 年度は、国内外から研究者を招聘したシンポジウム、講演会の開催や、統計教育や研究にかかわるワークショップを積極的に運営してきた。

各メンバーの活動概要は以下のとおりである。まず金澤助教は、連携 GP 内部に設置された「カリキュラム策定委員会」（質保証制度を確立するための日本の統計教育水準を策定する事業を展開）の委員である。金澤助教は立教大学の統計教育に関連するシラバス調査をおこない、国内統計教育の現状についての報告としてまとめた。

小野寺助教は連携 GP 内部に設置された「質保障委員会」（質保証委員会のミッションとして平成 22 年 8 月に公表された「統計学分野の教育課程編成上の参照基準」の改訂作業を行う）の委員として参加した。

つぎに、プログラム・コーディネーターの三田知実は、ミシガン大学に設置された「ICPSR」（統計研究教育のグローバル・スタンダード確立に従事する事業をおこなう組織）で毎年開催される「サマー・プログラム」のカリキュラム実態調査をおこない、カリキュラム策定委員会報告書に調査結果としてまとめられた。

田中学術調査員は、立教大学で開催されたシンポジウム、講演会、ワークショップの概要をまとめる作業をおこなってきた。このように 2012 年度の立教大学社会情報教育研究センターは、国内統計教育水準の策定に必要な多くの情報を、シンポジウム・講演会・ワークショップ・調査・報告書執筆をつうじて収集してきた。以上の理由から立教大学は、統計教育大学間連携ネットワークのカリキュラム策定事業に大きな貢献をおこなってきたものと評価できる。

◆ 今後の課題について

今後の連携 GP の主要課題として、具体的に国内の統計教育水準を向上させるという事業をおこない、国民に認知してもらうことが挙げられる。こうした現状のもと立教大学社会情報教育研究センターは、2012 年度の活動で得てきた国内外の研究教育に従事するひとびとのネットワークと、豊富な情報を駆使しながら、カリキュラム策定に直結する成果を挙げる必要がある。とりわけ統計教育コンテンツの作成と、外部への積極的な情報提供が求められると言えよう。

◆ 参照資料

統計教育大学間連携ネットワーク HP <http://www.jinse.jp/>

◆ 大学間連携事業関連講演会

社会情報教育研究センター共催として米国における統計教育の改革を推進している専門家を招聘して以下の講演会を開催した。

<統計教育大学間連携ネットワーク公開講演会>

テーマ「米国大学における統計基礎教育の実践と評価」

開催日 2012年12月14日（金）

場 所 立教大学池袋キャンパス 太刀川記念館 3階多目的ホール

主 催 大学間連携共同教育推進事業

共 催 立教大学 社会情報教育研究センター

講演者・タイトル

Rosy Peck（カリフォルニア工業大学数理統計学科副学科長、統計教育大学間連携ネットワークアドバイザーボード委員）

『大学における統計基礎科目（STAT101）の概要と高大連携による評価の仕組み～Advanced Placement Statistics Test～』

Curt Hinrichs（SAS米国本社JMP部門アカデミックマネジャー、前トムソンラーニング「応用統計・統計計算」部門編集長）

『統計基礎科目授業実践におけるICT活用の実際と教科書の構成』

4) 高校・大学 連携教育への取り組み

社会情報教育研究センターでは、本学における高校・大学一貫教育への取り組みとして立教新座高等学校への授業協力を実施した。

実施校 立教新座高等学校

科目名「社会と統計」

開講時間 水曜8時40分～10時30分

<授業内容>

学期	授業回数	担当者	授業内容
1 学期	1	山口教授	ガイダンス
	2	山口教授	現代社会における統計の役割①
	3	山口教授	現代社会における統計の役割②
	4	田中学術調査員	統計分析の基礎①
	5	田中学術調査員	統計分析の基礎②
	6	田中学術調査員	統計分析の基礎③
	7	金澤助教	調査の基礎①
	8	金澤助教	調査の基礎②
	9	山口教授	まとめ
2 学期	1	小野寺助教	政府統計を活用した分析①
	2	小野寺助教	政府統計を活用した分析②
	3	廣瀬助教	社会調査における分析①
	4	金澤助教	社会調査における分析②
	5	山口教授	分析実習①
	6	山口教授	分析実習②

	7	山口教授	分析実習③
	8	山口教授	分析実習④
	9	山口教授	まとめ
3 学期	1	山口教授	プロジェクト
	2	山口教授	プロジェクト発表・振り返り

## 6.研究支援事業

社会情報教育研究センターでは、研究支援事業として ICT を活用した研究基盤の提供や調査研究コンサルティングといった研究支援を実施している。また、近年は地方自治体・企業への調査分析請負など学内にとどまらず、活動の幅を広げている。

### 1)分析協力

- ①依頼元 愛媛県東温市役所・東温市長  
 目的 『東温市中小企業等現状把握事業所実態調査』詳細分析  
 調査主体 政府統計部会 菊地 進(経済学部 教授)
- ②依頼元 岩手・宮城・福島県中小企業家同友会  
 目的 『被災地企業実態特別調査』の分析  
 調査主体 政府統計部会 菊地 進(経済学部 教授)

### 2)調査研究コンサルティング

立教大学の大学院生や教職員を対象に、CSI は調査研究に関するコンサルティングを提供している。コンサルティング対応可能な相談内容は、社会調査の立案や実施、公的統計データの利活用、統計的分析に関する相談である。

これらのコンサルティングの多くは一回にとどまらず、その後の調査経緯も含めて複数回のコンサルティング対応を行っている。また、どの研究分野においてもデータ分析は必要不可欠であることから引き続き相談に来るケースが多い。このような統計分析に関する相談窓口が設置されたことは、研究の質向上に多大な影響を及ぼし、本学研究者における研究リテラシーの向上に繋がる。2012 年度はコンサルティング開始 3 年目を迎え、相談者数も昨年度より増加がみられる。以下、コンサルティング応談件数詳細を掲載する。

#### 2012 年度社会情報教育研究センター コンサルティング応談件数

依頼先	個人による依頼	部署からの依頼	総計
ビジネスデザイン研究科	7		7
コミュニティ福祉研究科	2		2
経済学研究科	7		7
文学研究科	1		1
経営学研究科	1		1
社会学研究科	1		1
ランゲージセンター	7		7
経営学部	2		2



コミュニティ福祉学部	1		1
リサーチセンター		1	1
学生部学生厚生課		7	7
総計	29	8	37

**社会情報教育研究センター  
コンサルティング応談件数推移**

2010年	11件
2011年	31件
2012年	37件

### 3)社会調査データアーカイブ(RUDA)

名称 立教大学社会調査データアーカイブ  
Rikkyo University Data Archive (RUDA)  
URL <https://ruda.rikkyo.ac.jp/>  
一般公開日 : 2011年4月1日

利用条件： 大学・研究機関に所属する研究者、および本務先を持たない研究者・大学院学生・学部学生がユーザー登録のうえ各データセットの利用申請を行うことができる。ただし、本務先を持たない研究者・大学院学生・学部学生の利用申請については、大学・研究機関に所属する研究者1名の承認を必要とする。利用目的は、社会調査データを利用した二次的分析といった研究目的、および授業での教育利用を前提とする。

立教大学社会調査データアーカイブ(RUDA)は、社会調査(統計的調査)データを収集・整備し、研究・教育目的の二次分析のために提供を行う。社会調査(統計的調査)データを、ひろく収集・整理し、長期にわたり保管し、社会調査データを、ひろく研究目的や教育目的の二次分析のために提供する。特徴としては、学術研究の調査データを重点的に収集し、地域調査のデータを充実させていく。また、あらゆる社会科学的な調査データを幅広く扱う。そして社会科学の個人研究者や研究者グループによる学術研究調査データの蓄積にとくに力を入れていく。全国調査だけではなく地域調査データの蓄積の充実を計る。2012年12月10日に広報活動促進のためにリーフレットを増刷した。

<公開データセット：32件(2013年4月1日現在)>

公開日	調査名
2013年2月15日	地域の生活課題と住民力に関する調査'09
2013年1月21日	社会意識に関する仙北地域住民調査
2012年12月11日	世田谷区の高齢者の生活実態調査
2012年11月13日	退職調査

2012年10月2日	暮らしと仕事についての東京住民調査(TGSS2010)
2012年9月18日	生活と防災についての市民意識調査
2012年6月12日	暮らしと仕事についての豊島区民の意識
2012年3月16日	大学生のジェンダーと子育て意識・行動に関する調査
2012年2月28日	女性の就業とサポートネットワークに関する調査
2012年2月14日	多様化する暮らしと社会に関する調査
2012年1月20日	住みよいまちづくりと地域の国際化についてのアンケート
2011年6月28日	高校管理職者の教育と職業意識に関する全国調査
2011年6月24日	養護教諭の社会意識と教育意識に関する全国調査
2011年6月23日	教師の社会意識と教育意識に関する全国調査
2011年4月1日	社会意識に関する仙台市民調査
2011年4月1日	生活環境についての新座市民調査
2011年4月1日	生活と環境に関する仙台市民意識調査
2010年10月1日	社会意識に関する東京住民調査
2010年10月1日	暮らしと仕事に関する仙台市民調査
2010年10月1日	暮らしと教育についての仙台市民意識調査
2010年10月1日	社会意識に関する宮城県民調査
2010年10月1日	教育と友人関係に関する調査
2010年10月1日	岩手県 暮らしと人間関係に関するアンケート
2010年10月1日	パーソナルネットワークに関する地域間・都市間比較調査
2010年10月1日	都市特性と子育て支援ネットワークに関する調査
2010年10月1日	少子化と就業女性の支援ネットワークに関する調査
2010年10月1日	2007 GMFS - 10 City Survey "Quality of Life Survey"
2010年10月1日	都市生活と生活意識に関するアンケート調査(名古屋2地点調査)
2010年10月1日	都市居住と親族・友人関係に関する調査(名古屋4地点調査)
2010年10月1日	都市生活と家族に関する意識調査
2010年10月1日	名古屋都市圏調査
2010年10月1日	東京版総合社会調査「高齢・少子社会における都市居住と家族・親族関係に関する調査」

## 7. 出版物・WEB等

- 調査報告書「3.12 震災、復興への課題と統計情報の役割 ―結いの心で築く新生栄村―」  
2012年3月25日 200部作成
- RUDAリーフレット増刷  
2012年12月20日 5000部作成
- ホームページリニューアル  
V-campusポータルサイトリニューアルに伴い、社会情報教育研究センターWEBサイトもSharepointで構築したサイトへ移行を実施した。また、ファイルサーバシステムもSharepointで一元管理が行われている。  
URL: <http://csi.rikkyo.ac.jp/>
- Twitter (ツイッター)  
[http://twitter.com/#!/Rikkyo\\_CSI](http://twitter.com/#!/Rikkyo_CSI)

## 8. 受賞歴

2012年11月27日社会情報教育研究センター政府統計部会(部会長:菊地進 経済学部 教授)は財団法人日本統計協会主催平成24年度統計活動奨励賞を受賞した。統計活動奨励賞は統計に関する活動への積極的な取組みを奨励し、日本国内における統計の進歩発展に寄与するため、統計利用のための基盤整備・利用促進・統計教育の推進および質保障に積極的に取組み、多大な成果を挙げた

と認められる人又は団体等に対し授与される賞である。今回受賞となった取り組みは以下の通りである。

### 「大学における公的統計教育のための学習コンテンツの開発と ICT を用いた利用促進」

2010年3月社会情報教育研究センター発足後、政府統計部会では公的統計の体系的学習を促すべく、学習コンテンツを開発し、ICTを利用して学部・学科を問わず学習できるようメディアセンターと連携を行い、全学的な統計教育推進を進めてきた。ICTを活用した統計学習コンテンツの提供、政府統計の二次的利用講習会の実施、利用促進コンテンツの作成などを通じ、大学教育における政府統計データの利用を促す取り組みを継続的に実施してきたことが今回の受賞理由となった。特に政府統計を実際に活用する機会が少ない学部生など幅広い層への普及・利用促進に寄与し、大学教育における統計の質保障と政府統計データを活用した教育推進に大きな貢献を行ったと認められた。

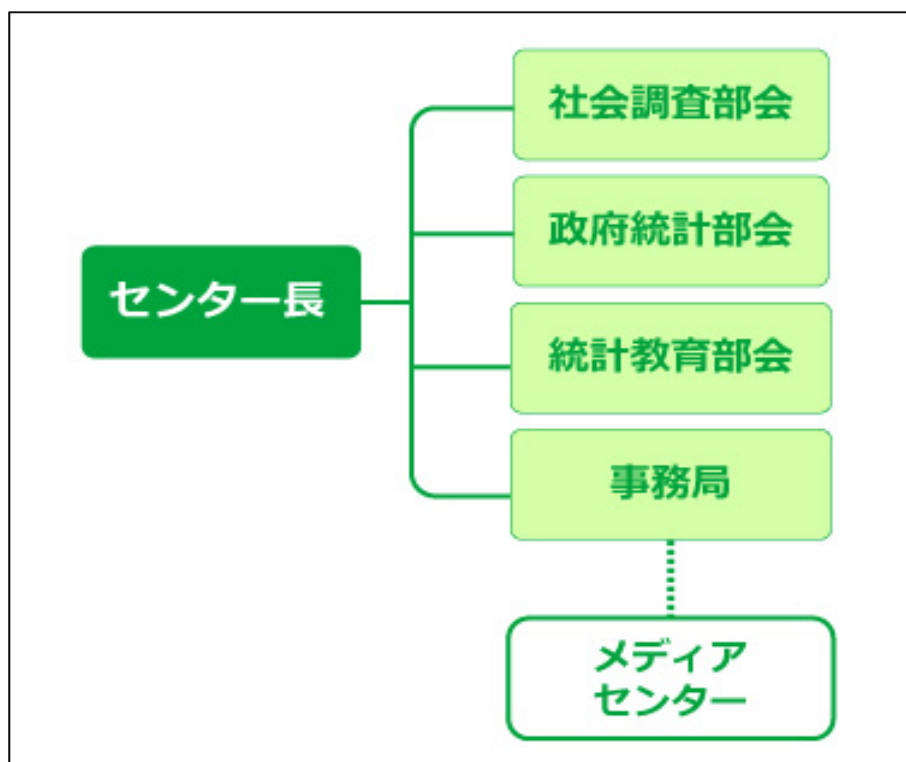
公的統計の作成のために国は膨大な予算を使っている。「行政のための統計」という位置づけの時代はそれでもよかったかもしれないが、「社会の情報基盤としての統計」（新統計法）と位置付けられるようになった今、その利活用には大学としても大いに力を入れていかなければならないであろう。

## 9. 人事

- ・退職（2013年3月31日） 学術調査員 三田 泰雅
- ・退職（2013年3月31日） プログラム・コーディネーター 三田 知実
- ・退職（2013年3月31日） 助手 石幡 繁子

## 10. 組織図

社会情報教育研究センターの組織図は以下の通りである。



## 11.メンバー一覧および各種委員会・部会等

### (1) メンバー一覧

センター長	間々田 孝夫(社会学部 教授)
政府統計部会リーダー	菊地 進(経済学部 教授)
社会調査部会リーダー	坂田 周一(コミュニティ福祉学部 教授)
統計教育部会リーダー	山口 和範(経営学部 教授)
センター員	岩崎 俊夫(経済学部 教授) 岩間 暁子(社会学部 教授) 松本 康(社会学部 教授) 小野寺 剛(社会情報教育研究センター 助教) 廣瀬 毅士(社会情報教育研究センター 助教) 金澤 悠介(社会情報教育研究センター 助教)
学術調査員	倉田 知秋 三田 泰雅 田中 潮
プログラム・コーディネーター	三田 知実

### 社会情報教育研究センター事務局

毛利 立夫(メディアセンター 課長)  
宮内 文隆(メディアセンター 主幹)  
根岸 千佳(メディアセンター 職員)  
石幡 繁子(助手)  
服部 好美(助手)  
荒井 美智江(メディアセンター・業務委託)

### (2) センター委員会

間々田 孝夫(社会学部 教授)  
菊地 進(経済学部 教授)  
松本 康(社会学部 教授)  
山口 和範(経営学部 教授)  
岩崎 俊夫(経済学部 教授)  
岩間 暁子(社会学部 教授)  
坂田 周一(コミュニティ福祉学部 教授)  
東條 吉純(法学部 教授・教務副部長)  
平山 孝人(理学部 教授・メディアセンター長)  
毛利立夫(メディアセンター 課長)  
宮内 文隆(メディアセンター 主幹)  
根岸 千佳(メディアセンター 職員)

石幡 繁子(助手)  
服部 好美(助手)  
荒井 美智江(メディアセンター・業務委託)

(3) センター運営会議

間々田 孝夫(社会学部 教授)  
菊地 進(経済学部 教授)  
松本 康(社会学部 教授)  
山口 和範(経営学部 教授)  
毛利立夫(メディアセンター 課長)  
宮内 文隆(メディアセンター 主幹)  
根岸 千佳(メディアセンター 職員)  
石幡 繁子(助手)  
服部 好美(助手)  
荒井 美智江(メディアセンター・業務委託)

(4) センター連絡会議

間々田 孝夫(社会学部 教授)  
菊地 進(経済学部 教授)  
松本 康(社会学部 教授)  
山口 和範(経営学部 教授)  
岩崎 俊夫(経済学部 教授)  
岩間 暁子(社会学部 教授)  
坂田 周一(コミュニティ福祉学部 教授)  
小野寺 剛(助教)  
廣瀬 毅士(助教)  
金澤 悠介(助教)  
倉田 知秋(学術調査員)  
三田 泰雅(学術調査員)  
田中 潮(学術調査員)  
毛利立夫(メディアセンター 課長)  
宮内 文隆(メディアセンター 主幹)  
根岸 千佳(メディアセンター 職員)  
石幡 繁子(助手)  
服部 好美(助手)  
荒井 美智江(メディアセンター・業務委託)  
藤野 裕(経済学部助教・陪席)

(5) 政府統計部会定例会議

菊地 進(経済学部 教授)  
岩崎 俊夫(経済学部 教授)  
小野寺 剛(助教)  
倉田 知秋(学術調査員)  
藤野 裕(経済学部 助教)

鈴木雄大(リサーチ・アシスタント)  
荒井 美智江(メディアセンター・業務委託)

(6) 社会調査部会定例会議

坂田 周一 (コミュニティ福祉学部 教授)  
松本 康 (社会学部 教授)  
岩間 暁子 (社会学部 教授)  
廣瀬 毅士 (助教)  
三田 泰雅 (学術調査員)

(7) 統計教育部会定例会議

山口 和範 (経営学部 教授)  
金澤 悠介 (助教)  
田中 潮 (学術調査員)  
三田 知実(プログラム・コーディネーター)

(8) 大学間連携共同教育推進事業

山口 和範 (経営学部 教授)  
金澤 悠介 (助教)  
小野寺 剛 (助教)  
田中 潮 (学術調査員)  
三田 知実(プログラム・コーディネーター)

以上